



「まるやまカー助の会」発足！

当院では、これまでリハビリ健診や地域公開講座、認知症カフェといった地域活動を行っていましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動自粛を余儀なくされました。

一方、当院に併設しております社会福祉法人溪仁会の3施設(特別養護老人ホーム西円山敬樹園、ケアハウスカームヒル西円山、グループホーム西円山の丘)でも、コロナ禍以前には地域カフェ等の活動を行っていましたが、当院同様に自粛している状態です。

長引くコロナ禍でどんな活動ができるかを各々で模索していた中、「地域に貢献したい気持ちは一緒。せっかくなら医療×福祉のコラボで地域支援を考えよう！」となり、当院及び併設3施設の有志が集い、お互いのこれまでの活動を振り返りつつ、現状の地域課題を話し合う場が今年2月に設けられました。そうした中、これまでの地域交流が一部であったことを再認識し、まずは働く職員がもっとその地域を知り、地域とともにあゆむ病院・施設づくり、その先のまちづくりへと考えていける活動に取り組むことを目的に「まるやまカー助の会」が発足されました。

この会の名称は、円山がカラスの里でもある自然豊かな地域にちなんで、見て見ぬふりをせず、地域ニーズにありのまま応えていきたいという想いをこめて名づけられました。

今回、活動第1弾として新聞紙エコバックを8月より配布開始しました。これは、ケアハウスカームヒル西円山のご入居者や介護医療院のご入所者、有志の職員が作成しており、地域の皆さんとつながりたい、いろんなことをやってみたいという想いをこめたカードを添えて郵便局や児童会館、近所の商店の皆様へ配布しています。

今後はコロナ禍でも出来ることを考えながら、地域の困りごとなどを相談できる窓口を作り、地域ニーズをくみ取りながら、医療×福祉をコラボした活動を幅広く行っていく予定です。そして、自分達だけではなく、関係機関や地域のみなさんとなつながりを持ち、色々な面で連携しながら、ともに地域ニーズに応えていきたいと考えています。

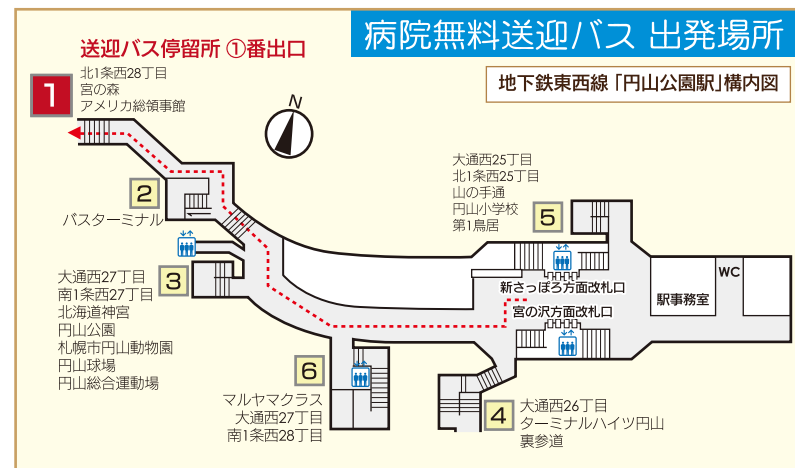


西円山敬樹園白取生活相談課長と円山西町7丁目にある『cafeスロープ』さんにお邪魔し、新聞紙エコバックをお渡ししました(8月某日撮影)

無料送迎 バスのご案内



- 地下鉄東西線「円山公園駅」より無料送迎バスを運行しておりますので、ご利用ください。(約10分)



無料送迎バスは②番出口/バスターミナルからは乗車できませんので、ご注意ください。
時刻表のバスは、すべて地下鉄円山公園駅①番出口発となります。
時刻表 ★のバスは、土日祝祭日は運休となります。

バス時刻表

2020.4.1 改定

時	病院発	地下鉄「円山公園駅」発
8	—	★40 55
9	15 55	35
10	50	15
11	30	10 50
12	10 50	—
13	★30	10
14	10	30
15	00 40	20
16	20 45	00 40
17	★25 30	45
18	00 30	15 45
19	00 30	15 45
20	05 45	30
21	25 45	—

①番出口 発車

「にしまるやま通信」についてのお問い合わせ先

医療法人 溪仁会
札幌西円山病院 地域連携推進室 TEL: (011) 644-1380 FAX: (011) 642-4347

〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 札幌西円山病院 地域連携推進室内 広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

医療法人 溪仁会 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 広報誌

季節が移り変わる時期
体調変化にご注意を

No.124

ご自由にお持ちください

発行日: 2021.10.1

にしまるやま通信

季節の写真レビュー



特集 院長ご挨拶

- ・【コラム】わたしたち、医療ソーシャルワーカーです！！
- ・当院訪問リハビリテーションの紹介と取り組みについて
- ・地域とつながる「まるやまカー助の会」発足！・無料送迎バスのご案内

病院のご案内

札幌西円山病院

診療科目／内科、老年内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器内科、歯科
病 床 数／603床(障害者施設等一般病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟)

札幌西円山病院 介護医療院

入所定員／60名(3人床:19部屋、個室:3部屋)

院長 ご挨拶

医療法人溪仁会 札幌西円山病院
院長 浦 信行



日頃より、当院の運営にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延が続き、終息の見通しがつかない状況下において、関係者の皆様におかれましては大変なご苦勞を続けられていることと拝察申し上げます。賛否はございますが、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、無観客といった制限下において選手の皆様が奮闘している姿を拝見し、我々医療従事者も感動と勇気をいただきました。まだまだコロナに打ち勝った状況とは言えませんが、必ず終わりが来ることを信じ、皆様と一緒にこの難局を乗り越えていきたいと存じます。

さて、当院ホームページにも掲載しておりますが、本年の5月に当院にて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生いたしました。患者様・ご家族・関係者の皆様には、多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。また、その渦中にて皆様から励ましのお言葉などを頂いたこと、職員一同改めて感謝申し上げます。

5月1日に第1例目の陽性者を確認し、最終的には患者さんと職員あわせて33名の発症となりました。同時期に隣接する介護老人福祉施設西円山敬樹園でもクラスターが発生したため、当院と西円山敬樹園でそれぞれ発症した陽性者を受け入れる病棟を開設し、新型コロナウイルス感染症の診療を開始いたしました。陽性者の受入れ、診療そして終息に向けては、地域の関係機関のご協力をいただき、また溪仁会グループの医療機関や福祉施設が一丸となって対応することで、6月4日にクラスターの終息を迎えることが出来ました。この場をおかりして、ご協力いただいた関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。クラスターで経験したことを今後の感染対策強化に活かし、地域の皆様には安全に、安心して当院をご利用いただけるよう医療を提供していきたいと考えております。

最後になりますが、当院は『多機能慢性期病院』をスローガンとして掲げています。高齢者を中心とした慢性期医療の提供と共に、生活習慣病や神経内科の病気に対応する専門外来、回復期から維持期にあたるまでのリハビリ等を提供しております。このコロナ禍においても、地域のニーズに応える『多機能慢性期病院』としての役割をしっかりと果たし、地域の医療・福祉に貢献していきたいと考えておりますので、今後もより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コラム

わたしたち、
医療ソーシャルワーカーです!!



第2回目 神経内科チームより

【神経内科とは】

神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる「内科」です。しびれやめまい、ふらつき、筋力低下、筋のつっぱり、歩きにくい、話しにくい、むせ、ものが二重に見える、ひきつけ、頭痛、勝手に手足や体が動く、ものわすれ、意識障害など多種多様な症状をみる科です。

パーキンソン病や脊髄小脳変性症などのいわゆる「神経難病」といわれる疾患だけではなく、脳血管疾患の後遺症や、てんかん、認知症など、さまざまな症状・病名の患者さんが神経内科を受診されます。

【当院の神経内科機能】

当院には3つの神経内科の病棟があり、外来は月曜日～金曜日まで毎日診療を行っています。外来は予約制ですが、当院がかりつけの患者さんについては臨時受診の相談もお受けしています。入院については、検査や薬物療法だけではなく、リハビリも大事な治療の一環として、さまざまな治療と並行してほぼすべての患者さんに実施しています（症状により退院後、外来でリハビリを継続されている方もいます）。発症初期の診断から終末期まで、あらゆる病期の患者さんを対象として、診療しています。

【医療ソーシャルワーカーの業務】

- 外来受診に関して、患者さん・ご家族・他院・さまざまな機関からのご相談に応じています。
「受診したいけれど紹介状がない」「神経内科でみてもらったほうがよい症状なのかわからない」など、受診までの色々な不安や心配も、MSWがご相談をお受けしています。
- 入院療養中、退院後に利用可能な社会制度を提案し、必要に応じて申請や利用のお手伝いをします。
- 症状のことで不安なことがある場合は、相談の窓口となり、時には、患者さんにご家族の間で生じる課題解決にも取り組んでいます。外来、入院問わず様々なご相談内容があり、医療に関する助成制度、各種制度案内や他院受診など、多岐にわたります。

上記症状やご病気でお困りの方は、一度当院の地域連携推進室までご相談ください。

当院訪問リハビリテーションの 紹介と取り組みについて

第2回目



② 訪問リハビリ利用までの流れを教えてください

以下がおおまかな流れになっております。

相談・受付

当院入院の場合は病棟担当の医療ソーシャルワーカーへ利用希望について御相談下さい、介護保険をお持ちの方は担当のケアマネージャーへまずはご相談下さい。

かかりつけ医による診療情報提供書の依頼

病状・リハビリの必要性についてかかりつけ医からの診療情報提供書の作成をお願いする場合があります。

契約・担当者会議・リハビリ会議

訪問リハビリの利用上の説明を行った上で契約を行ないます。また御自宅等にて関連サービス担当者が集まりケアプランの確認等を行います。

定期的な当院訪問リハビリ担当医師による診察

当院訪問リハビリ外来にて診察を行い、注意点・目標を設定していきます。（3か月毎に診察が必要）
※訪問リハビリを利用する際は原則受診して頂きますが、やむを得ず受診出来ない場合はご相談下さい。

訪問リハビリの開始

利用日時、時間に担当セラピストがご自宅へ訪問します。利用者様お一人おひとりの具体的目標を可視化し原則利用期間を設定した関わりを実践しております。

② 訪問リハビリの実際について教えてください

- 利用頻度は週1～2回で1回40～60分、利用期間は平均64.4日となっています。
- 実際の訪問リハビリに設定した目標はおおまかに以下2つに分けられますが、個々の生活に即した具体的課題解決を行っています。

1 ◇公共交通機関等を利用したり、歩いて「どこどこに行く」と行った目標

→具体的には… ●300m程度離れたお店まで疲労せずに行くことができる ●地下鉄を利用し外出することができる ●近所の公園までの散歩や通院ができる ●週2～3回、近所のスーパーに買い物に行くことができる ●自宅内10数段の階段昇降ができる ●アパートの外階段を手すり使用し見守りのもとで昇降できる ●ボランティア活動に週1回通うことができる ●歩行補助具を使用し1区画分(約300m)の散歩ができる ●電動車椅子での外出が出来るようになる ●マンション玄関まで安全に歩行ができる ●通所リハビリテーション(デイケア)、通所介護(デイサービス)に行くことができる ●家族付き添いのもと銭湯に行くことができる ●自宅周辺の喫茶店まで行くことができる ●ご家族と旅行へ行くことができる

2 ◇何かをする(例えば家事)ために必要な心身機能の確保する、またそれ自体を行う目標

→具体的には… ●1時間程度の家事動作ができる ●腰痛なく入浴動作ができる ●ご家族が負担なく入浴介助できるようにする ●食事環境や嚥下機能を評価し誤嚥なく過ごすことができる ●衣類を取り込んだり畳む動作を安全に行なうことができる ●1時間以上連続して立って活動ができる ●ベッド周辺環境、車椅子クッション、室内靴、トイレ環境の整備ができる ●安全な介助方法を習得することができる ●介助にて負担が少なく安全に移乗動作ができる ●趣味活動が継続できる ●20分以上立位での活動が継続できる ●転倒や腰痛増強なく家事を行なえ、マンション玄関までの歩行を安全にできる ●洗濯畳みや茶碗洗い等が実施できる ●趣味である散歩を転倒なく行なえる ●介助や日課である散歩(円山公園まで)を継続できる ●自宅内の家事動作等を転倒なく実施することができる ●運動習慣を持つことができる ●痛みなく洗濯や調理が継続して実施できる ●ペットの世話が出来る ●留守番を一人で出来る